



娘が防衛大!?

愛媛県自衛隊家族会 八尾 伸吾

中学校の頃から自衛隊に興味があった娘が高校三年生の時、「防衛大学を受験する。」と言いました。私はそれまでなんとなく一般の大学を受験するものだと思い込んでいたので少し驚きましたが、理由を聞くと将来ヘリコプターの操縦士になり人命救助がしたいとのこと。しっかりした目標がある娘の意見は固いものでした。

ただ親族や周囲の知人に自衛隊関係者はおらず、今まで関わったこともありません。多少の不安を感じつつ、受験説明会に行った娘の報告を聞くと、なかなか良い印象を持って帰ったようでした。広報官の方に自衛隊のことや防大の学生舎での生活、卒業後の進路など、詳しく丁寧に教わり本人もより一層防大を目指すようになりました。

無事に合格することができてホッとしていたのは入校式までのわずかな期間だけ。4月1日に防大の正門まで見送った時、異様な緊張感を発しながら校内へ入って行った様子が印象的でした。誰もが初めての環境に慣れるのは大変なものです。それが防衛大学の学生舎ですから、さぞ面倒な食事だと思います。規則や規律、慣習など覚えなければならぬことが一気に増えたことでしょう。約9年間続けた柔道で、ある程度体育系の感覚には慣れているとは思いましたが、全く未知の世界で一からの

スタートは想像以上に大変なようでした。ただ辛いことばかりではなく喜びもあるようで、大きな課題である8km遠泳を完泳できた時にはとても達成感のある表情で報告してくれました。大学では初めてのスポーツをしたいということで入ったフィールドホッケー部でも先生や先輩、同期の学生に恵まれて、校友会活動でも充実した生活を楽しんでいるようで少しずつ慣れてきたかなと私も妻も最近では安心しています。

これからの在学4年間で学び経験することや人脈は将来、必ず役立つでしょう。今後も柔道の「精力善用」の精神と「自他共栄」の教えを忘れずに精進してもらいたいと思います。



頑張れ!! 幹部候補生

和歌山県自衛隊家族会 松本 暁子

専門学校で紹介され息子が受験すると聞くまで、自衛隊についてテレビで見る程度の知識しかありませんでした。思いがけない合格の連絡を受けて、正直とても戸惑いました。運動なんて体育の授業ぐらい。「大丈夫できるようになります」と言っていただけでも半信半疑でした。同様に入隊を迷っている息子本人に、地方協力本部や募集案内所の方々が自衛隊や学校について熱心に説明やお世話をしてくださいました。

せっかく一般幹部候補生に合格したから人と違う経験をしてみたらと入隊を勧めました。それでもいざ出発の日が近づくと私が不安になり、頑張ってもらいたいけど無理はしないでいいからと言って見送りました。心配していた集団生活はすぐに順応できたようで安心しました。

陸上自衛隊幹部候補生学校に入校して約1ヶ月後の帰省のときは、まだ不慣れな様子でしたが、同室の防衛大出身の人に教えてもらいながら学校での生活を過ごしているとのこと。食事がすごくおいしい、と少しふっくらした顔で報告してくれて嬉しく思いました。訓練は厳しいようですが、休日にはクラスメイトと温泉や飲み会に行くこともあるそうです。8月に帰ってきたときはさらに体重が増えていて、日焼けした太くなった腕を自慢げに見せてくれました。

学校では卒業に向けて訓練が続いています。頑張っている息子を頼もしく思うとともに、ここまでの息子の成長にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。私たち家族は国防という大変な仕事を選び、その一端を担うため努力している息子を見守り応援し続けていこうと思います。



海上自衛官の我が子を誇りに思う

山口県自衛隊家族会 三浦 忠廣

私の息子は、現在海上自衛隊岩国基地第31航空群第71航空隊に勤務し、海上救難艇(U S - 2)の搭乗員として勤務しています。

思えば、25年前、山口地方協力本部(現在の自衛隊山口地方協力本部)の広報官の熱心な勧めもあり、大学進学を振り切って、航空学生の道を選びました。当時現職の航空自衛官であった私の気持ちは、大学進学を望んでいたもので、体力不足に不安があり、はたして、希望通りに進んでくれるか、複雑な心境でした。

しかしながら、親の危惧をよそに本人の努力と各教官の熱意あふれるご指導もあり立派に航空学生課程を卒業し、戦術航空士として勤務し、現在に至っております。この間、郷里の防府に所在します航空自衛隊防府南基地の開庁記念行事には、展示飛行でU S - 2の機長として、故郷の空を私たちはじめ親戚の見上げる中を飛行し、皆感動しました。また、NHK「サラメシ」で岩国基地飛行艇の勤務内容、食事等を紹介した番組に出演したこともあり、息子の勤務状況をつぶさに知ることができました。

海上で救助を求めている人、離島で救護を求めている人たちの命を守るという崇高な使命を与えられているわが子の任務の重さ、また、昼夜、わが国の海の守りに携わる皆様に心から敬意を表するものです。海上自衛官としてのわが子を誇りに思っ

ています。現在は、息子は、妻と子供2人にめぐまれ、岩国市内で温かい家庭生活を送っています。また、親子とも山口県内に居住していますので、互いに往復し、親子顔を合わせる機会も多々あり、孫の成長ぶりにも目を細めています。

これからも海上自衛官として、海の守りに専念できるよう陰ながら見守って行くつもりです。

また、私も自衛隊家族会会員として、息子に負けず、家族会業務に邁進する所存です。



頼もしい息子(自衛官)たちへ

茨城県自衛隊家族会 大川 明彦

私の息子夫婦は現在、息子は百里基地に、妻は小牧基地に単身赴任で勤務しております。1歳になる孫娘は、保育園の都合で現在は息子が子育てに奮闘しております。

息子の自衛隊入隊のきっかけは、大学卒業後の就職に悩む息子に「何か人を支える仕事が良いのでは」と自衛隊の父兄会を担当している町の総務課に相談したのがきっかけでした。その後募集案内所の広報官の方の熱心な勧めもあり息子は、入隊を決意しました。

しかし、陸上自衛官である私の弟から教育訓練の厳しさを聞かされ、過酷な職に就かせてしまったのではと心配で眠れなかったことを思い出します。

その後、たくましく成長した息子と再会することができたのは、平成23年3月11日の東日本大震災のことでした。

私の町も激甚災害に指定され1,200人が小中学校に避難し、1万1千世帯が断水、余震で眠れぬ夜を過ごしました。当時、山口県で訓練を受けていた息子が非常事態を心配した教官の命で、飲料水と食料を持ってだけ買い求め駆け付けてくれました。被災した実家の瓦礫を片付け、当時町の災害担当課長で災害対策本部から一歩も動けなかった私に「全部やっといたから」と一言、そのまま訓練に戻って行ったのです。頼もしく育った息子に感

激しました。このとき町では百里基地、勝田陸上自衛隊等から給水・食糧支援を受け不安におびえる被災者を支援することができました。

それまで私は、災害支援といえば遠いどこかの国の出来事のように思っておりましたが、迅速に災害支援を行う自衛隊員の方々の目をあたりにし誇らしく、さらに(自衛隊員に)感激しました。今でも常総市の水害、熊本地震など、ニュースで災害救助と支援を行う自衛隊員の方々の姿が映し出されるたびに自衛隊がなかったらと思うと同時に目頭が熱くなります。

国民のために命をかけて働く姿は、同じ自衛隊員をもつ家族として誇りに思っております。これからも日本の国を守るという責任と信念を持って、平和と安全のために貢献して欲しいと思っております。







迷彩とオーディカラー

栃木県自衛隊家族会 山宮 峯代

二男22歳。迷彩服に憧れて、只今、板妻にて陸教中!! 三男17歳。ODカラーに憧れて、只今、高等工科3年、奮闘中!! 東日本大震災。TVでは毎日惨劇な映像。幾日経ったでしょうか。川で分断された両岸に橋をかけ、大きなテントに湯の文字。その向こうで湯けむりに抱かれた被災者の笑顔。キビキビと動く隊員の迷彩服。「俺、自衛官になるわ。」と…。容易にはすぐなれない自衛官への道を目指し、2013年4月入隊。天晴れ。OD色の大きなヘリコプター。「うおお。スゲー。」中2の秋、社会体験学習で3日間自衛隊に行った三男。「俺、自衛隊のヘリコプターに関わる仕事がしたい。」と、日本一の高校、高倍率の高等工科大学を目指し、誰もが合格は無理と…。2014年4月入校。お見事。自分の憧れ(道)に着々と近づいていく君達は、わが家のヒーローです。どうか、人に対して思いやりを持って進んでください。きっとその先に道は拓ける。二人の息子に敬礼。



二男



三男

踏まれた草にも花が咲く

道北自衛隊家族会 辻 裕行

息子が入隊して早11年が過ぎようとしています。現在は、陸上自衛隊第3普通科連隊第3中隊で幹部候補生として小隊長を目指し、久留米の幹部候補生学校に入校中です。息子の入隊当時の自衛隊は、季節ごとの採用から年に1回の採用に代わり、人気もあり、ある程度の学力がなければ合格できない状況でした。当時の息子は、高校在学中の自衛官採用試験に不合格、就職活動も自分の思っているようにならない状態の子供でした。そして、高校卒業後は、約1年間転々としたアルバイトと就活の毎日でした。路頭に迷う息子と、先の見えない息子を心配する親、そんな中、母親の一言が「お前も自衛官になれ!」でした。その裏には、熱心に家に足を運んでくれた広報官の一言がありました。「採用試験に不合格でも諦めず何回も試験を受けている子供もいます。」息子も熱心な広報官のおかげで採用試験に本気で向かうようになり、皆に遅れること1年、なんとか自衛隊に入隊できました。入隊が決まったものの、ついていけないか・・・安堵感と同時に複雑な気持ちでいっぱいでした。親の気持ちを尻目に、新隊員前期の教育修了間近に息子は、「親元離れた勤務地・部隊・親と同じ職種もすべて自分で決めた。」と言いました。一番驚いたことは、「自衛隊は最高だよ。」と返ってきた言葉でした。「なぜ?」と聴くと、「宮内生活や教育の苦しみ、辛さとは、給料がもらえてや食費・家賃・電気代といった生活費がかからず、

比べ物にならないくらい最高」と返ってきた言葉でした。自衛官として成長していく息子を頼もしく思いながらも心配もありましたが、職場の同僚や先輩、後輩等に育ててもらえる安心感は何物にも代えられませんでした。今では理解ある女性自衛官の伴侶と孫娘にも恵まれ、息子を育ててくれた部隊、先輩・同僚そして後輩はもちろん、息子の選んだ環境にも感謝するとともに、目標に向かう息子の成長に「踏まれた草にも花が咲く」思いでいっぱいです。最後に安全保障の仕組みができた今、正にそれを実行していく家族を持つものとして、あらためて今一度、私達家族も新しい家族会の「信条」である、隊員に最も身近にある存在であることに誇りを持ち、力を合わせて自衛隊を支えていくそんな気持ちです。



「第一術科学校に入校して」

佐賀県自衛隊家族会 牟田 みどり

子供三人兄弟、長男は陸上自衛官・二男は海上自衛官・三男は一般の会社員として、それぞれに頑張っております。海上自衛隊でお世話になっている二男は、自衛隊入隊に際し、兄の凛々しい姿に影響され、受験を決意したようです。平成6年3月に中学を卒業し、4月に広島県江田島の第一術科学校に入校しました。元気に頑張って来なさいと、入校させたものの、親は毎日心配と不安の日々でした。子供と逢ったのは、入校式の日、制服姿を見たときは、感動で胸が張り裂けそうでした。また、長期休暇で帰佐したときにも本当に、わが子なんだろうかと目を疑うほどでした。息子の変わり様に本当に感激したことをいまだに覚えております。教育期間中、年に2~3回ほど家族で学校行事を見学に行きました。遊泳訓練・体育大会・文化祭等で頑張っている息子の姿を頼もしく感じながら、帰りのフェリーの中では「頑張ってね。いつも応援しているから」と祈りながら帰ったことを思い出します。4年間いろんなことがありましたが、教官を初め周りの方々のご指導で平成10年、無事卒業することができました。卒業後は、青森県の大湊基地に着任し、現在に至っております。これからも、自衛官として誇りと信念をもって任務を遂行し

頑張ってくれることを願っております。そのためにも親として、家族会の行事に積極的に参加して国の守りを担う自衛隊を応援していきたいと思っております。



東日本大震災の果ては

福島県自衛隊家族会 浦山 正一

大学を目指していた息子の入隊が決まり、最初に意志の表現をしたのが、突然スキンヘッドに…。まさしく「自衛官になるぞ!!」という気迫を感じられ、親として、この上ない喜びを味わいました。教育隊を無事終了し、松島基地に配属となり、仕事に邁進、祭祀に恵まれ充実した日々を過ごしていたころ、未曾有の東日本大震災に遭遇しました。非常時に対処できるように訓練を受けている自衛官でも音信不通の日が何日か続いた時は、言葉では言い表せない心配をしました。当時、松島基地では隊員が一丸となり、災害派遣の任務遂行にあたっていたころ、福島県の自宅では、東京電力福島第一原発事故による外部被ばく等で身動きがとれず、生きた心地がしませんでした。その後、航空自衛隊の大滝根山分屯基地で、日々任務に専念しております。現在、四世代同居という大家族に恵まれ、孫の笑顔が東日本大震災の苦難を少しずつ癒してくれ、毎日が平穏に過ごすことができることに感謝をしています。息子には、これからますます日々努力を重ね、日本の国を守

るため任務遂行ができることを願い、家族で協力していきたいと思っております。

